



社会福祉法人いわき福音協会

会 報

第12号
2007. 8. 31

発行責任：いわき福音協会広報委員会 ☎0246-23-1903
住 所：福島県いわき市平上平窪字羽黒40-44



『ひまわり』小島保育園園児達の共同作品

期待に添うように

いわき福音協会理事長 海野 洋

以前、福祉の対象と言えは特定の方々と考えられた。

しかし近年は、社会全体の問題として対象者も拡大をみせている。自立や対等なサービスとの関係、或いは、人間としての基本的な権利主張にも、耳を傾ける社会環境となったことは喜ばしい。

施設利用者にしても、限定された生活から一歩踏み出し、地域に人生を選べる今回の改革には大きな期待感もある。勿論、一抹の不安や躊躇がない訳ではないが、その表情には確かな希望が読みとれる。

私達はこうした期待に添うように、また、皆さんがより良い生活が求められるように、一つ一つ具体的な対応を重ねながら、この支援体制を進めたいと思っている。そのためにも生活の場や就労の

確保など、今後、一層期待されるだけに関係者のご支援を頂きながら、少しでも早く実現が図れるように努力したい。

その一方で、改革の崇高な理念に押され、急ぎ地域移行に拍車をかける議論には、少し慎重さを持たなければなりません。たとえ将来に、施設への選択肢が消えたとしても、必要とされる限り、施設の存在を失ってはならないが、ただ、この度の障害程度区分の判定によつては、施設生活を望んだとしても、継続する難しさがあるのも事実である。そうした方にどう対処し支援ができるか、私達は知恵をだす必要がある。

いずれにしろ、今日の時代に求められる情勢に、しっかりと向き合わなければなりません。なかなか旧来の枠から抜け切れない体質の反省も必要でしょうし、利用者自身が心底から望むサービスに、どこまで応えられるかが、法人存続の鍵であることは間違いないと思っている。

それにしても、今、福祉界が人材難で悲鳴をあげている

と云う。私達にしても、新体系における地域支援の取組は厳しく、彼等が地域に生活を置き、自立への軌道に乗るためには、その支援体制の充実は不可欠である。

そのためにも良い人材を得たいと願っている。なかでも地域の数多いサービス事業者との競争は熾烈である。そこに携わる職員には厳しい視線もあり、時には否応なく事業所が選択される。そうしたサービスを提供するものであれば、私達にも応える自負があるが、企業と競わせ、労働者と見なす福祉の現状には、誇りを失わせるどころか、より人間的に成長したいと願う若者の魅力を削いでしまう。その上、経営とやらがどんと居座り、過重な負担を強いる競争原理の導入には、なかなか馴染めないものがある。

と云つて、こうした改革は進んでおり、憤慨したところで元に戻るわけではなく、新たなサービス体系に背を向けることは許されない。少なくとも、その取組みには一気に埋没されないように、不安に流されず慎重に進めたいものである。



一枚の絵

盛況を呈したチャリティ絵画展



オープニングセレモニー(小島保育園児による鼓笛隊)

いわき福音協会七番目の施設・野の花ホームが完成した時「庭に花を咲かそう。壁に絵を飾ろう」と密かに思った。それはアスファルトや雑草だらけの庭よりも、単に無味乾燥な壁だけよりも、一輪の花、一枚の絵が、夢や希望、懐かしさやほのぼのとしたもの、楽しさや勇気…具体的にそれが何かは分からないが、いずれにしてもホームに生活をする利用者の多くに、そうした何かを伝えてくれると思ったからである。

去る七月七日から七月九日
にかけ、グリーンプラザいわ



ボレラ画伯のサイン会

き多目的ホールにおいて、イタリアからアンドレア・ボレラ画伯をお招きし、いわき福音協会福祉事業支援「チャリティ絵画展」(実行委員長・阿部右)を開催した。

福祉制度が激動している今、もう一度、創設の心を確認し、さらには現在取り組んでいる福音協会の事業を多数の市民の方々に知ってもらい、新たなニーズの発掘に繋げていければとの希いもあった。

「面白く、楽しく、愉快に」をキャッチフレーズに展開した三日間の絵画展は、雨の予報も外れ、一七〇〇名近い来場者となった。「もう少し静



ボレラ画伯より絵の贈呈

かに見たかった」と記された方もおられたが、終日、熱気むんむんとした中での鑑賞になったことは確かである。

今回、アンケートに寄せられた、福音協会への様々な要望は、解決しなければならぬ私たちの課題と真摯に受け止めて、今後のいわき福音協会の事業の取組みに活かしていければと願っている。

さて、陽気な画伯の明るい色彩、そして様々なジャンルの画家たちの素晴らしい作品は、果たして観客の心にどのような余韻を残しただろうか。

ブオン・ジョルノ(こんにちは)付け焼き刃で覚えた挨拶は、いつしか記憶の淵から失せようとしている…。

終わりに、チャリティ絵画展をご支援下さった多くのボランティアの方々、スタッフ、関係者の皆様に心から感謝して、絵画展事務局長としての報告にしたいと思います。

(岡部 明)

法人役・職員表彰 おめでとうございます

6月2日は法人の設立記念日です。毎年、これを記念して役員10年以上、職員20年以上の永年勤続に対して表彰を行っています。今年は6月1日に22回目の表彰式が大河内記念館で行われ、7名の職員の方々が表彰されました。また、みはま愛護の会会長として、はまなす荘開設以来永年に亘り当法人事業に物心両面のご支援を下されました永井俊正様が、今回会長職を辞されました。これまでの多大な功績に感謝し、設立記念日にあたり特別賞が理事長より贈られました。誠にありがとうございます。

- 受賞者
- 後藤 京子
 - 草野 啓子
 - 志賀きみ子
 - 谷山あや子
 - 湊 純
 - 鈴木 生央
 - 高橋まり子
 - 永井 俊正



小島保育園

小島保育園では現在、生後二ヶ月の乳児から就学前の六歳までお預かりしています。

保育時間も、地域のニーズに答え、月曜日から土曜日まで、朝七時十五分から夕方七時十五分まで十二時間開所しております。

「自分のことは自分でしましよ
う」「お友達と仲良く遊びましよ
う」「許し合う心を持
ちましよ
う」「いけ
ないことはやらないようにしまし
よ」という、四つの保育目標を掲げ、
園児の健全な発育・発達を保障す
べく、保育さサービスを提供して
おります。



大好きなプール遊び
色分けゲームで競争です。



大好きな絵本をみんなで読みました。

幼保の一元化というこ
で、三歳以上児に
ついては、「保
育指針」
に基づい
て、幼稚
園教育と同等の教育を提供できるよ
う、また、三歳未満児については、
その基礎作りができるよう、「教育
計画」を策定し、評価反省を個別に
行っております。

さらに、在園の保護者はもちろんのこと、家庭保育をする保護者に対しても、昨今の核家族の孤立化を考慮し、園庭開放や「集いの広場」などを
行い、育児相談などを通して、積極的に、育児支援をしております。
これからも、子どもにとっても、保護者にとっても「楽しい保育園」となるよう日々努力してまいります。



親子で楽しい夏祭り



お外でボディペインティング

福島整肢療護園

肢体不自由児施設 重症心身障害児施設

福島整肢療護園は「手足の不自由な子どもたち」が、手厚い医療と看護のもとで、生活援助と学校教育を受けられるようにとの祈りを込めて、キリスト教徒で、整形外科医であった大河内一郎博士らにより、昭和二十七年に東北・北海道で初めての治療しながら教育を受けられる肢体不自由児施設として設立され、その後平成五年には重症心身障害児施設を併設しました。

当園は医療法に基づく病院と児童福祉法に基づく児童福祉施設(肢体不自由児施設と重症心身障害児施設)の二つの機能を併せ持つ事により、「医療を以って、この地域の障害児を療育し、保護者の療育を支援すること」を基本理念に掲げ、福島県浜通り圏域を中心に独自の医療サービスを展開しております。

外来診療(小児科・内科・整形外科・リハビリテーション科)にあわせ、入院・入所機能を通して医師・リハビリスタッフ・看護師・保育士・ケアスワーカーなどの各専門スタッフがチームを組んで、治療が困難とされていたさまざまな障害(脳性麻痺など)のお子さんに対し、早期の適切な治療・リハビリテーション・生活全般にわたる指導・ケア(リハビリテーション・医療)を行うことにより、障害が改善され、ご本人及びご家族が楽(らく・たのしい)に生活

活できるよう、また、自立・社会参加出来るよう支援を行っております。

現在は一つの施設に二歳から三十四歳までのおよそ六十五名の方々が入所され、学齢児は隣接する平養護学校に通学して教育を受けています。また外来では0歳児から成人の方まで毎日およそ七十名の方々が通院されています。

福祉機能ではいわき市より地域療育等支援事業や重症心身障害児(者)通園事業B型の委託を受け実施すると共に、自立支援給付の短期入所事業やいわき市地域生活支援事業の日中一時支援事業を実施し、医療的な側面以外にも地域で生活されている障害児及びご家族の支援を行っております。

福島整肢療護園は身体の不自由な子どもたちのリハビリテーション病院です。



所在地
● 所在地 いわき市平上平塚字古館1番地の2
● 電話番号 0246-251813
● FAX番号 0246-251813
● ホームページアドレス
http://www.fyogoen.fif

カナン村

カナン村は、働く能力を持ちながらも、他の場所での雇用や就業の困難な身体障がい者の方々が施設を利用し、必要な訓練を行い、職業を通して自立(自律)させることを目的としています。

利用者の皆さんは、地元企業からの委託作業を、各作業班に分かれて互いに障がいを補いながら懸命にそして楽しく働いています。

授産(作業)以外の生活向上の一環としては、月ごとに様々な行事が企画されています。野外食やショッピングを始め社会見学(日帰り旅行)また、隣接の野の花ホーム・光の家との合同で「カナン・野の花祭」を毎年十月に、地域や父兄・ボランティアの方々との協力を得て、利用者・職員共々一丸となって地域の人たちとのふれあいを深めています。

また、新事業体系に向けた支援のあり方について授産の作業を軸に、一人ひとりの適正・希望に合わせた個別支援サービスに努めています。障がい者総合生活支援センター「ふくいん」と共同で、将来地域生活に向けてのケアホームの宿泊訓練も昨年からは実施しています。

ショートステイ・日中一時支援事業、療養施設B型(通所)事業も行っています。ご利用頂ける方はご連絡下さい。

今後の生活の場「地域移行」に向けて、赤井ケアホームで、宿泊体験を始めました。一月十五日から十八日まで体験をした、芳賀さんに感想を書いていただきました。

赤井ホーム宿泊体験

芳賀恵美子

私は、十五日から十八日までケアホーム赤井で体験をしました。行く前は不安でしたが、実際赤井ホームに行くくと不安は少し取れたような気がしました。

赤井ホームに行くにあたって準備した物は、三分分の洋服、ハンガー、ピンチ、洗面用具、薬、ストローを用意しました。それでも足りない物は、カナン村に戻ってから準備しました。赤井ホームへ行く時は、法人の移送サービスを利用しました。赤井ホームの食事ですが毎日美味しく頂きました。普段はご飯を少なめで頂いているので、心配でしたが残すことなく食べることができました。

お風呂に入る時は大変でした。手すりを備えてあるのですが、すべってしまい、世話人さんに手を貸していただきました。

世話人さんは、とてもよい方でたくさんのお話をしました。住んでる方も、とてもよい人たちで気軽に話すことができ良かったです。

知的障害者入所更生施設 はまなす荘

概要

はまなす荘は、知的障害のある方(原則として十八歳以上)が、地域での社会生活を営めるよう生活面や作業訓練を通じて個々の能力を最大限引き出し、出来るだけ普通の生活が出来よう援助することを目指しています。

主として、六つの作業場での作業訓練、施設敷地内の宿舎や地域の借家を利用し、生活の訓練を行なう自立訓練、たくさんのボランティアさんに支えられた余暇活動など、色々なことを経験しながら利用者さんたちは地域生活へ移行する力を養っています。

また、入所事業の他にショートステイも行なっております。保護者さん、本人さん、人のレスのレイトのためにも利用できます。利用を考用を考えている方はご連絡下さい。



ふれあいレクのひとコマ

花見

はまなす荘で毎年恒例の花見が、四月二十日に石森山フラワーセンターで実施しました。当初は十六日の予定でしたが、あいにくの雨だったため延期、改めて二十日に実施となりました。二十日は好天となり、待たされたと言う気持ちもあいまつてか、利用者さんたちの顔にはいつもより笑顔が見受けられました。



花見のひとコマ

今回は八名のボランティアさんを含め、総勢百三十三名の人数でパンジーやチューリップ、少し散り気味だった桜などを鑑賞してきました。場所こそ去年と同じフラワーセンターでしたが、皆さんそれぞれ、花を見る方、キャッチボールなど運動を楽しむ方、はたまた昼寝やお菓子などゆつくりとすごされる方と日頃の疲れを忘れ楽しんでいました。帰路も恒例の長い山道散歩でしたが、皆さんも慣れたもので「疲れた」「暑い」と言いながらも頑張つて歩いていました。

利用者さんたちも高齢になつてきており、一口に運動といっても難しくなつてきてはいますが、皆さんが歩ける限り続けられればと思つています。

はまぎく荘

施設紹介

当施設は知的障がいをもった方への入所更生施設ですが、他の事業として短期入所事業と自活訓練事業を行なっています。お蔭さまで自活訓練事業を通して、毎年数名の利用者がグループホームやケアホーム等の地域生活へ移行することができております。

男女子の生活寮を利用しながら、施設から地域に向けて利用者と一緒に施設全体で取り組んでいますので、今後でもできるだけ多くの方が地域で生活できるよう支援していきたいと思っています。

花見・バーベキュー

四月二十五日、利用者さんの花見が行われました。今年は少し遠出ではありましたが富岡方面へ出掛け、一日ゆつくりしているとという日程でした。残念なことに既に花は散ってしまい葉桜でしたが、気分は『花見』皆さん数日前から天気予報を心配したり、着て行く洋服を気にしたりと一年に一度の花見を心待ちにしていました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、「グリーンフィールド富岡」の屋内の施設を利用したので、天気の影響を受けずにバーベキューを楽しむことができました。鉄板を囲み肉

や野菜を焼き、少しのビールを飲み、焼けるのを待つ時間も楽しんでいるようでした。普段と違って時間をかけ、目の前で一緒に調理をし食事を楽しみながら、利用者さんと職員が会話を楽しむことで自然と笑顔もみられました。「おいしかった」と満腹の言葉だけではなく、皆さんの表情からはとても満足そうな様子が伺うことができました。お腹が満たされた後は「リフレ富岡」で入浴・休憩をし、さっぱりとして帰路につきま

した。行きは賑やかだった車内も帰りはウトウトと眠る姿が多く見られました。小休止の後には、皆さんが一番楽しみにしている買物の時間。必要な衣類、飲んでみたい新発売のビール、毎回買うお気に入りのお菓子……。両手に持ちきれないほどの買物袋を下げて帰ってきました。今回は少し遠くまで行ったこともあり、忙しいスケジュールになっても反省点でした。来年はぜひ桜が満開なときに花見を！これから利用者さん達の希望に添えるように工夫していきたいものです。



はまゆう通勤寮の紹介

通勤寮は「就労している知的障害者を職場に通勤させながら一定期間入所させ、対人関係の調整や余暇の過ごし方、健康管理等の独立した生活の実現に必要な事項の支援を行うことにより、入所者の社会適応能力を向上させる」ことを目的とした施設です。

はまゆう通勤寮は昭和五十七年四月一日に開所されました。利用できる方は十五歳以上で知的障害があり、現に就労(福祉的就労を含む)しているか就労見込みのある方となっております。平成十九年四月一日現在男子十二名、女子十一名が入所しています。就労状況は十二名が一般就労、十一名が福祉的就労に就いています。給与は多い人で十万円を超え五千円位の方もいます。

通勤寮は「あたりまえに、普通の生活がしたい」という寮生の夢を実現させる為に、各関係機関と連携し、寮生の就労だけでなく、退寮者が地域で安心して生活できるよう支援を行っています。

はまゆう通勤寮・古館福祉ホーム

古館福祉ホームの紹介

古館福祉ホームは、平成三年四月一日に就労している知的障害者で、家庭環境、住宅事情等の理由により、現に住居を求めている人たちが独立した生活を営む為に利用し、就労に必要な日常生活の安定を確保するようとして、社会参加の助長を図ることを目的として開所され、今年で十六年目を迎えました。現在ホームには男子五名、女子五名の十名が入所しており、最年少が二十五歳、最年長が五十九歳となっています。入所者全員毎日就労に励んでいます。



野の花ホーム

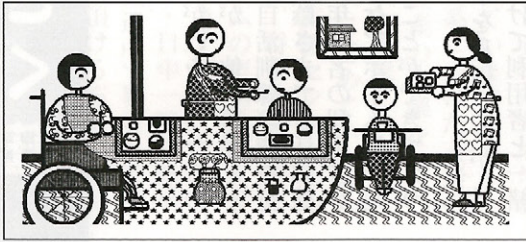
野の花ホームは、常に介護を必要とする身体に重度の障がいを持つ方が利用している施設です。生活介護・医療管理・機能訓練と、個々のニーズに合った生活支援に取り組んでいます。

又、重度障がい者の可能性を求めて、自立に向けた支援、シヨートステイ・通所を積極的に受け入れ、開かれた施設づくりを推進しています。

食事ももっと楽しく —給食改善委員会—

近年、野の花ホームでは利用者の加齢・重度化に伴い、そしゃく、えん下困難な方が増えてきており、生活支援の一環として給食改善委員会を立ち上げました。内容は、個々の利用者に合った食事形態の見直し、「自分で食べたい!!」という方の要望に沿った自助具、特殊皿・スプーン等食器の見直し、食堂の座席(介助者の配置)など様々です。現在、福島整肢療養園の協力を得て、月二回の摂食研修会に参加しています。

今後は、この研修会で学んだことを活かしながら、一人一人の利用者に対して職員が共通の認識のもと介助できるように取り組んでいきたいと思います。



利用者 佐々木留美子



利用者 猪狩純一



光の家

私たちの施設は昨年の十月の新サービス体系への移行に伴い、「デイサービスセンター 光の家」から「生活介護事業所 光の家」に名称が変更になりました。

私たちの「生活介護」というものは在宅のかたが対象で、それぞれの自宅への送迎も行なっております。曜日ごとに送迎方向もばらばらで近くは平窪、遠くは小名浜と大小の車を使い分けて送迎しています。

光の家に到着する時間はそれぞれ異なりますが、おおよそ十時くらいには全員がそろいます。一日の利用人数は上限二十五名で、入浴を希望する方は午前中に行ない、入浴を希望されない方はホールにておのの希望に沿った活動を行います。活動としてはリハビリ、創作活動、パソコン、作業などがあり、スタッフはその活動のサポートを行なっています。創作活動としては絵を描いたり粘土細工でアクセサリーの作成、七夕飾りなどの季節ごとの展示物も作成しています。

光の家ではパソコンが四台あり、光回線でインターネットも楽しめるます。今までパソコンに触れたことがなかったかたがたも、職員やパソコンに詳しいほかの利用者さんに教えてもらいインターネットで検索、ワードで文章作成なども覚えていきます。そして自分でパソコンを買い自宅で

年賀状作成ができるまでになった方もいます。

また光の家では相談支援事業も行っていて福祉制度についての情報提供、利用者さんが安心して日常生活を送れるようお手伝いいたします。

行事として七月の後半より海浜バスハイクを行います。今年はアクアマリンふくしまや四倉海岸などへのドライブを予定しております。秋には紅葉をみにドライブ、年末にはクリスマスパーティーも予定しております。

このように年間通して行事を織り交ぜながら各利用者さんのニーズに応じたサービスの提供を行なっています。また創作活動やコミュニケーションなどお手伝いいただける方も募集していますのでご遠慮なく連絡ください。利用について興味のある方もぜひ一度光の家のほうに遊びに来てください。お待ちしております。



生活介護事業所

いわき市平上平窪字羽黒 40-51
TEL 0246-25-5471
FAX 0246-25-5472

シヤローム

平成十五年に事業を開始したシヤロームの居宅介護事業は今年で五年目を迎えます。地域移行が進む法人利用者に対するホームヘルプサービス提供の役割を担い設置されました。開設年と支援費制度のスタートが重なったこともあり業績は順調に伸び、昨年から六十五歳以上の利用者へのサービスとして訪問介護事業(介護保険)を開始しています。障害者自立支援法施行により改めて認可を受け再スタートした当事業所ですが、制度変更に伴うサービス内容の見直しや新たなサービス負担金の設定により大きな打撃を受けました。端的な事例として、これまで同一サービスだった移動支援サービスが法的に分離され、移送と介護がそれぞれ道路運送法と自立支援法の適用となったことです。移送料金については一般のタクシール金をベースに設定される料金なので、これまでに比べ割高感が残ります。またグループ・ケアホーム利用者のホームヘルプ利用が制限され、提供できるサービスが限定的になってしまいました。何といってもサービス負担金の上昇がサービス利用にブレーキを

かける要因となっています。

このように運営的には逆風に晒されている状況ですが、今年度中に居宅介護支援事業(ケアマネジメント)の認可を受け、訪問介護事業の強化を図るなど事業所全体の底上げを検討しています。今後、法人施設の新サービス体系への移行に伴い地域生活者の増加が予想されます。関係事業所との連携を図りながら、「ホームヘルプサービスのご用命は安心・安全・安価のシヤロームに」と自信をもってアピールできる福祉サービス事業所づくりを目指しています。



障害者総合生活支援センター ふくいん

施設紹介

障害者総合生活支援センターではいきの街中に拠点を置き、障がいを持つている方の働きたい・地域で生活したいという思いの実現に向けて支援を行う「障害者就業・生活支援センター」と、地域で一人暮らしは不安だけど仲間と一緒に地域で生活したいという思いのある方の支援を行う「グループホーム・ケアホーム(十六カ所)」、障害のある方やその家族からの相談にのり、自立した生活を営む事ができるよう助言や情報提供を行い、専門機関との連携を図って支援を行う「相談事業所ふくいん」の三つの事業を行っているセンターです。

行事

去る六月二十日(水)から二十二日(金)の三日間、第三回障害者・就業生活支援センター就業支援担当者経験交流会、第九回全国就業支援ネットワーク定例研究研修会が、いわき市文化センターをメインに四会場で開催されました。今大会は大阪の事務局よりいわき市で開催したいと要請があり、大会の準備を県内の就業・生活支援センター、障がい者就



業サポートセンターに協力を頂き行いました。初日に行われた地域体験オブショナルツアー「地域ネットワークをいわきから学ぼう」は厚生労働省からの要望で今大会から企画され、全国から百二十名の参加がありました。内容はいわき市の企業・福祉の取組みを全国に知ってもらうために、本社をいわき市におく企業二社、多機能事業所のつばさ、当センター、NPO法人そよ風ネットいわきを訪問し実際に現場を見学しました。二日目午前中のシンポジウムでは厚生労働省より三名、文部科学省、内閣府よりそれぞれ一名、計五名のシンポジストの方を招きそれぞれの立場から就労状況・国の考え・課題・今後の方向性が示されました。午後のシンポジウムⅡ「福島県いわき市の取組みから学ぼう」では就労移行の地域展開について、いわき独自の手法、いわきだから取り組めた事、また将来の方向性などを四人のシンポジストの方より発表があり、その後の質疑応答やナイトセッションで全国の方と意見の交流がありました。全国就業支援ネットワークは「働きたい」という障がいのある人の願いを現実の形にする為、現場で働く実践者自らが経験や思いをベースに時には行政施策にそれぞれ反映させ、具体的な支援策・創造や提供を目指してきた集団であるとして事務局も話しておられます。その働きたいと願う人一人でも多くの夢を叶えさせようと今大会から熱意が伝わってきました。大会運営には県内の就業・生活支援センター、障がい者就業サポートセンター、全国就業支援ネットワーク、法人各事業所の方々には多大なご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。ありがとうございます。

(三日間の延べ参加人数六百九十名)

つばさ

昨年九月まで知的障害者デイサービス及び小規模通所授産施設として運営してきましたが、障害者自立支援法により、昨年十月から新たに福祉サービスマン事務所「つばさ」として開所しました。

自立訓練(生活訓練)

利用者が地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上等のための支援を行っています。

就労移行支援事業

一般就労等を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ適



性に合った職場への就労等が見込まれる者で野菜苗や花の販売、製袋等の作業を行っています。

就労継続A

就労機会

を通じ、生産活動にかかわる知識及び能力の向上を図り、雇用契約に基づき就労が可能な者が、就労の製造販売を行っています。

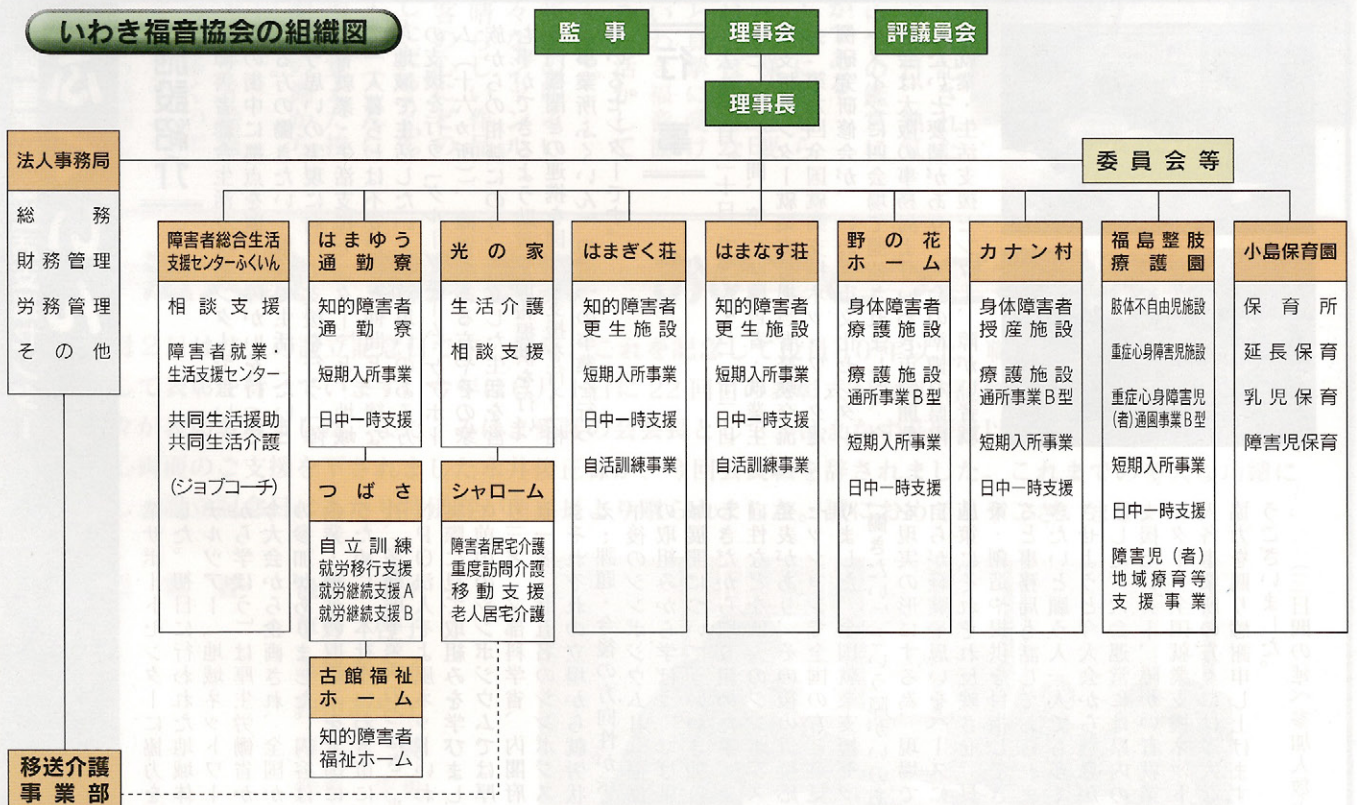


就労継続B

就労移行支援事業等を利用したが一般企業等の雇用には結びつかない者や一定年齢に達している者などであって、就労の機会を通じ、生産活動にかかわる知識及び能力の向上を目指し、庭の手入れ、室内清掃等の環境整備の作業をしています。

これらの仕事を通じ、授産事業の強化と雇用拡大を目指しています。

いわき福音協会の組織図



編集

後記

当法人は昭和25年6月に設立し小島保育園から始まりましたが、現在組織図のように多くの施設・事業所を運営しています。今回から各施設のニュースも掲載することになりました。施設の状況も併せてご理解頂き御拝読頂きましたら幸いです。(M)

評議員会、理事会開催される

去る5月29日(火)に地域交流センター『大河内記念館』交流ホールにて評議員会と理事会が開催されました。平成18年度事業報告及び収支決算等の議案が上程され審議の結果すべての議案が承認されました。ここに、下記の通り平成18年度事業報告及び貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書を公表致します。

平成18年度(2006年) 事業報告

1. 平成18年度の標語

『信仰と希望と愛、

このうちで最も大いなるものは愛である』

～コリント人への第一の手紙 13章13節～

2. 事業の開始

平成18年10月1日

- (1) 多機能事業所つばさ [自立訓練事業・就労移行支援事業・就労継続支援事業A型・就労継続支援事業B型]
- (2) 生活介護事業所 光の家
- (3) 共同生活援助(介護)事業所 ふくいん
(宮ホーム他16カ所)
- (4) 移動支援事業所 シャローム
- (5) 短期入所事業所(日中一時支援事業所)
カナン村、野の花ホーム、はまなす荘、はまぎく荘、はまゆう通勤寮、福島整肢療護園(肢体、重心)
- (6) 相談支援事業所 光の家、ふくいん
- (7) 移送介護事業部(有償運送事業)

3. 廃止になった事業

- (1) 身体障害者デイサービスセンター 光の家
- (2) 障害者生活支援センター 光の家
- (3) 知的障害者デイサービス事業 風のつばさ
- (4) 小規模通所授産施設 ひかり

4. その他の事業

- (1) 視覚障害者向けIT講習会の実施
いわき市の委託を受け実施
- (2) ジョブコーチ(職場適応援助者)による支援事業

5. 民間資金補助金等による事業

- (1) 日本自転車振興会
*福島整肢療護園：平成18年度肢体不自由児施設の整備補助事業(医療機器整備)

総事業費	18,553,500円
補助金	13,915,000円

- (2) 日本財団

*野の花ホーム：車いす対応車整備事業	
総事業費	2,178,610円
助成金	1,060,000円

- (3) 財福島県総合社会福祉基金

*野の花ホーム：野の花ホーム東側のり面修復工事	
総事業費	3,423,000円
助成金	1,800,000円

- (4) 日本郵政公社

*ひかり：平成18年度年賀寄附金配分事業 (送迎及び配達用車両の購入)	
総事業費	1,035,750円
助成金	680,000円

- (5) 福島県共同募金会

*ひかり：製品搬送用軽自動車整備事業	
総事業費	1,150,000円
助成金	770,000円

- (6) 公益信託佐鳥基金

*はまなす荘：厨房食器消毒保管庫整備事業	
総事業費	465,000円
助成金	450,000円

6. 研修会の実施

- (1) 内部研修

- ① 新規採用職員研修会
講師：理事長・理事・施設長等
- ② 「障害者自立支援法の概要とこれからの障害福祉」
講師：日本社会事業大学 平野方紹氏
- ③ 「障害程度区分と障害者自立支援法の方向性について」
講師：全国身体障害者施設協議会会長 伊藤勇一氏

- (2) 地域支援委員会研修会

- 「本人の声を聴こう」
- ① 法人職員向け研修会
 - ② 施設利用者向け研修会(知的・身体障害)

平成18年度社会福祉法人いわき福音協会財務報告

○貸借対照表【一般会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借																		
		本部会計	療護園(肢体)	療護園(重心)	野の花ホーム	光の家(デイ)	光の家(支援)	はまなす荘	はまぎく荘	はまゆう運動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	風のつばさ	小島保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	光の家(相談)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
流動資産	324,229	26,400	47,982	24,506	49,978	0	0	76,395	34,747	13,455	3,352	14,290	0	13,981	5,709	376	8,214	989	3,068	757
固定資産	2,661,885	172,203	727,587	472,550	434,860	0	0	117,900	261,237	58,694	11,306	0	109,755	6,611	207	181,978	3,396	1,441	618	
資産合計	2,986,114	198,603	775,569	497,056	484,838	0	0	194,295	295,984	114,997	62,046	25,596	0	123,736	12,320	583	190,192	4,385	4,509	1,405
負債	101,785	14,490	15,225	11,091	8,873	0	0	13,549	7,141	1,626	560	9,752	0	3,314	5,099	353	7,512	920	1,500	680
固定負債	231,476	6,008	51,743	46,012	27,320	0	0	28,513	18,594	5,167	4,200	5,401	0	13,416	2,439	207	19,542	2,555	44	315
基金	883,086	78,433	87,059	166,438	138,810	0	0	32,773	146,718	81,819	56,854	2,530	0	57,785	0	0	33,251	0	616	0
国庫補助金等特別積立金	707,416	211	177,206	66,731	203,396	0	0	2,937	76,420	20,604	17,326	0	0	17,115	0	0	125,470	0	0	0
その他の積立金	733,176	97,663	227,350	202,800	77,991	0	0	55,219	22,149	10,183	200	850	0	38,771	0	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	329,175	1,798	216,885	3,983	28,448	0	0	61,304	24,962	△4,402	△17,093	7,063	0	△6,665	4,782	23	4,418	910	2,349	410
負債・純資産合計	2,986,114	198,603	775,568	497,055	484,838	0	0	194,295	295,984	114,997	62,047	25,596	0	123,736	12,320	583	190,193	4,385	4,509	1,405

○貸借対照表【授産施設会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借				
		カナン村	ひかり	つばさ(移行)	つばさ(A)	つばさ(B)
流動資産	33,700	21,396	0	3,287	6,777	2,240
固定資産	222,981	208,882	0	1,291	12,788	20
資産合計	256,681	230,278	0	4,578	19,565	2,260

○貸借対照表【公益事業会計】
いわき障害者就業・生活支援センター

(単位：千円)

科目	借方	
	目	金額
流動資産	1,422	
固定資産	2,215	
資産合計	3,637	

○貸借対照表【収益事業会計】
移送介護事業部

(単位：千円)

科目	借方	
	目	金額
流動資産	855	
固定資産	0	
資産合計	855	

科目	合計額	貸方				
		カナン村	ひかり	つばさ(移行)	つばさ(A)	つばさ(B)
流動負債	15,007	5,818	0	2,073	6,056	1,060
固定負債	21,916	18,958	0	1,291	1,647	20
基金	63,110	63,110	0	0	0	0
国庫補助金等特別積立金	104,967	99,391	0	0	5,576	0
その他の積立金	45,295	45,295	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	6,386	△2,294	0	1,214	6,287	1,179
負債・純資産合計	256,681	230,278	0	4,578	19,566	2,259

科目	貸方	
	目	金額
流動負債	920	
固定負債	2,215	
基金	0	
国庫補助金等特別積立金	0	
その他の積立金	0	
次期繰越活動収支差額	502	
負債・純資産合計	3,637	

科目	貸方	
	目	金額
流動負債	701	
固定負債	0	
基金	0	
国庫補助金等特別積立金	0	
その他の積立金	0	
次期繰越活動収支差額	154	
負債・純資産合計	855	

○事業活動収支内訳表【一般会計】

科目	合計額	本部会計	療養園(軽度)	野の花ホーム	光の家(デイ)	光の家(支援)	はまなす荘	はまぞく荘	はまぞう通動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	風のつばさ	小鳥保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	光の家(相談)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)	
事業活動収入計(1)	2047,555	12,130	428,857	456,854	259,194	25,500	6,375	305,657	187,256	47,775	9,505	104,021	5,066	114,405	41,773	483	26,855	6,869	5,585	3,415
事業活動支出計(2)	1,986,643	39,095	404,986	413,366	241,458	30,571	6,392	289,484	176,564	47,740	9,360	104,395	6,789	116,123	48,416	3,660	33,768	7,023	4,431	3,022
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	60,942	△26,965	23,871	43,488	17,736	△5,071	△17	16,173	10,692	35	145	△374	△1,723	△1,718	△6,643	△3,177	△6,903	△154	1,154	393
事業活動外収入計(4)	82,661	61,057	2,403	111	1,798	201	1	25	198	6	244	95	1,721	21	4,612	3,200	6,899	51	1	17
事業活動外支出計(5)	100,637	32,614	17,421	8,678	10,301	4,132	900	13,097	8,054	51	241	1,744	0	0	3,206	0	198	0	0	0
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△17,976	28,443	△15,018	△8,567	△8,503	△3,931	△899	△13,072	△7,856	△45	3	△1,649	1,721	21	1,406	3,200	6,701	51	1	17
経常経費収支差額(7)=(3)+(6)	42,966	1,478	8,853	34,921	9,233	△9,002	△916	3,101	2,836	△10	148	△2,023	△2	△1,697	△5,237	23	△202	△103	1,155	410
特別収入計(8)	22,250	0	17,863	0	2,860	0	465	1,062	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別支出計(9)	18,118	0	14,539	1,044	1,514	0	642	379	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別収支差額(10)=(8)-(9)	4,131	0	3,323	△1,044	1,346	0	△177	683	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	47,097	1,478	12,176	33,877	10,579	△9,002	△916	2,924	3,519	△10	148	△2,023	△2	△1,697	△5,237	23	△202	△103	1,155	410
前期繰越活動収支差額(12)	325,685	320	221,709	13,106	22,946	7,402	916	60,680	323	△4,392	△17,241	9,086	△748	△4,568	9,319	0	4,620	1,013	1,194	0
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	372,782	1,798	233,885	46,983	33,555	△1,600	0	63,604	3842	△4,402	△17,093	7,063	△750	△6,265	4,082	23	4,418	910	2,349	410
その他の積立金取崩額(14)	30,293	0	0	0	1,623	1,600	0	25,220	0	0	0	750	0	0	700	0	0	0	0	0
その他の積立金積立額(15)	73,900	0	17,000	43,000	6,700	0	2,300	4,500	0	0	0	0	0	400	0	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	329,175	1,798	216,885	3,883	28,448	0	0	61,304	24,662	△4,402	△17,093	7,063	0	△6,665	4,782	23	4,418	910	2,349	410

(単位：千円)

○資金収支内訳表【一般会計】

科目	合計額	本部会計	療養園(軽度)	療養園(重度)	野の花ホーム	光の家(デイ)	光の家(支援)	はまなす荘	はまぞく荘	はまぞう通動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	風のつばさ	小鳥保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	光の家(相談)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
経常収入計(1)	2,086,412	73,187	419,177	451,696	254,342	25,653	6,376	303,192	182,078	45,734	8,782	102,858	5,067	113,074	46,035	3,683	29,678	6,798	5,586	3,416
経常支出計(2)	1,969,688	67,394	391,655	405,540	237,113	34,392	7,208	290,561	171,707	43,356	7,022	102,445	6,749	109,812	50,270	3,605	27,238	6,644	3,993	2,984
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	116,724	5,793	27,522	46,156	17,229	△8,739	△832	12,631	10,371	2,378	1,760	413	△1,682	3,262	△4,235	78	2,440	154	1,593	432
施設整備等収入計(4)	22,250	0	17,863	0	2,860	0	465	1,062	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設整備等支出計(5)	65,624	1,260	22,817	254	9,460	0	1,338	28,459	0	105	302	0	1,337	0	0	0	0	0	0	292
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△43,374	△1,260	△4,954	△254	△6,600	0	△873	△27,397	0	△105	△302	0	△1,337	0	0	0	0	0	0	△292
取崩収入計(7)	39,954	0	2,307	3,562	2,277	1,614	0	1,435	26,145	21	0	1,143	750	0	700	0	0	0	0	0
財務支出計(8)	98,285	317	22,511	47,231	10,748	277	84	5,007	6,178	354	1,050	555	40	1,705	292	55	1,739	85	24	33
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△58,331	△317	△20,204	△43,669	△8,471	1,357	△84	△3,572	19,967	△333	△1,050	588	710	△1,705	408	△55	△1,739	△85	△24	△33
当期資金収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	15,019	4,216	2,364	2,233	2,158	△7,402	△916	8,186	2,941	2,045	605	699	△972	220	△3,827	23	701	69	1,569	107
前期末支払資金残高(11)	207,425	7,694	30,293	11,182	38,948	7,402	916	54,659	24,665	9,784	2,187	3,839	972	10,447	4,437	0	0	0	0	0
当期末支払資金残高(10)+(11)	222,444	11,910	32,657	13,415	41,106	0	0	62,845	27,606	11,829	2,792	4,538	0	10,667	610	23	701	69	1,569	107

(単位：千円)

○事業活動収支計算書【授産施設会計】

(単位：千円)

科 目	合 計	カナン 村	ひかり	つばさ (移行)	つばさ (A)	つばさ (B)
授産事業活動収入計(1)	45,053	2,795	19,379	910	20,218	1,751
授産事業活動支出計(2)	52,645	2,842	25,019	969	22,461	1,354
授産事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	△7,592	△47	△5,640	△59	△2,243	397
福祉事業活動収入計(4)	166,655	140,179	5,466	6,953	5,441	8,616
福祉事業活動支出計(5)	175,424	142,909	9,693	6,671	6,737	9,414
福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	△8,769	△2,730	△4,227	282	△1,296	△798
事業活動外収入計(7)	15,988	23	10,150	990	3,245	1,580
事業活動外支出計(8)	0	0	0	0	0	0
事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	15,988	23	10,150	990	3,245	1,580
経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	△373	△2,754	283	1,213	△294	1,179
特別収入計(11)	1,450	0	1,450	0	0	0
特別支出計(12)	1,785	335	0	0	1,450	0
特別収支差額(13)=(11)-(12)	△335	△335	1,450	0	△1,450	0
当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	△708	△3,089	1,733	1,213	△1,744	1,179
前期繰越活動収支差額(15)	7,019	719	△1,732	0	8,032	0
当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)	6,311	△2,370	1	1,213	6,288	1,179
その他の積立金取崩収入(17)	75	75	0	0	0	0
その他の積立金積立額(18)	0	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額(19)=16+17-18	6,386	△2,295	1	1,213	6,288	1,179

○事業活動収支計算書【公益事業会計】

いわき障害者就業・生活支援センター

(単位：千円)

科 目	金 額
事業活動収入計(1)	13,970
事業活動支出計(2)	16,177
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	△2,207
事業活動外収入計(4)	2,220
事業活動外支出計(5)	0
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,220
経常経費収支差額(7)=(3)+(6)	13
特別収入計(8)	0
特別支出計(9)	0
特別収支差額(10)=(8)-(9)	0
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	13
前期繰越活動収支差額(12)	489
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	502
次期繰越活動収支差額(14)	502

○事業活動収支計算書【収益事業会計】

移送介護事業部

(単位：千円)

科 目	金 額
事業活動収入計(1)	1,551
事業活動支出計(2)	1,098
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	453
事業活動外収入計(4)	1
事業活動外支出計(5)	300
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△299
経常経費収支差額(7)=(3)+(6)	154
特別収入計(8)	0
特別支出計(9)	0
特別収支差額(10)=(8)-(9)	0
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	154
前期繰越活動収支差額(12)	0
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	154
次期繰越活動収支差額(14)	154

○資金収支計算書【授産施設会計】

(単位：千円)

科 目	合 計	カナン 村	ひかり	つばさ (移行)	つばさ (A)	つばさ (B)
授産事業収入計(1)	45,053	2,795	19,379	910	20,218	1,751
授産事業支出計(2)	52,645	2,842	25,019	969	22,461	1,354
授産事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△7,592	△47	△5,640	△59	△2,243	397
福祉事業収入計(4)	175,883	136,517	15,468	7,943	7,494	8,461
福祉事業支出計(5)	163,974	133,890	9,601	6,630	4,481	9,372
福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	11,909	2,627	5,867	1,313	3,013	△911
施設整備等収入計(7)	1,450	0	1,450	0	0	0
施設整備等支出計(8)	2,067	0	2,067	0	0	0
施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	△617	0	△617	0	0	0
財務収入計(10)	1,810	75	0	0	0	1,735
財務支出計(11)	1,665	1,443	92	40	48	42
財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	145	△1,368	△92	△40	△48	1,693
当期資金収支差額合計(13)=(3)+(6)+(12)	3,845	1,212	△482	1,214	722	1,179
前期末支払資金残高(14)	14,848	14,366	482	0	0	0
当期末支払資金残高(15)=(13)+(14)	18,693	15,578	0	1,214	722	1,179

○資金収支計算書【公益事業会計】

いわき障害者就業・生活支援センター

(単位：千円)

科 目	金 額
経常収入計(1)	16,190
経常支出計(2)	15,965
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	225
施設整備等収入計(4)	0
施設整備等支出計(5)	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0
財務収入計(7)	0
財務支出計(8)	212
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△212
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	13
前期末支払資金残高(11)	489
当期末支払資金残高(10)+(11)	502

○資金収支計算書【収益事業会計】

移送介護事業部

(単位：千円)

科 目	金 額
経常収入計(1)	1,551
経常支出計(2)	1,397
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	154
施設整備等収入計(4)	0
施設整備等支出計(5)	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0
財務収入計(7)	0
財務支出計(8)	0
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	154
前期末支払資金残高(11)	0
当期末支払資金残高(10)+(11)	154